

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700807		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム北札内ふれあい館1・2 (北札内ふれあい館1)		
所在地	中川郡幕別町札内新北町77-5		
自己評価作成日	平成26年11月5日	評価結果市町村受理日	平成27年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivovyoCd=0174700807-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成26年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

優しい心、寄り添う心で自己実現を支援するケアを独自の理念としている。利用者を深く理解し、個別の本質的なケアを実践するよう全員で取り組んでいる。ホーム内には季節を感じて頂けるように利用者と一緒に創作した物などを展示して、楽しみや生活のメリハリ、心のやすらぎを感じてもらえるようにしている。民謡会やギター演奏、幕別町のボランティアの協力を得て、家族と共に楽しめるような行事を行い、地域の方との関わりを大切にしている。又、マッサージや美容室、外食などは本人の馴染みの所へ行けるように支援している。買い物などの要望にも速やかに対応している。風呂は天然モール温泉を使用しており、とても喜ばれている。明るく落ち着ける環境づくり、利用者の人権を最大限に尊重し、穏やかに安心して暮らせるよう職員一同心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木造2階建ての当事業所は、居間には季節の花、利用者・職員と一緒に作った作品を飾り家庭的な雰囲気、事務室、調理室からは利用者の動向が一望でき、利用者は安心して思い思いに過ごしている。長い廊下は健康づくりに活用され、風呂は、天然モール温泉で利用者は入浴を楽しんでいる。町内会に加入し、清掃活動などの地域の行事に参加して、事業所の夏祭りや焼肉会へ地域住民が参加し相互に交流が行われている。町の登録ボランティアが、民謡、お話しやギター演奏で利用者を楽しませ、散歩の付添いや種々のレクリエーションを手伝っている。防災訓練には地域に住む消防署幹部OBの協力と指導を受けている。家族は頻繁に来訪し、職員は来訪した家族と会話をするように心がけて、利用者の様子を報告するとともに、家族からの意見や要望をくみ取っている。家族は、事業所の要望に応じて必要な古タオルなどを提供して協力している。職員は、優しい心、寄り添う心を心がけ、利用者は、地域住民・家族・職員に見守られながら、その人らしい生活を安全・安心に送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念により、職員全体で地域密着サービスを目指して取り組んでいる。事業所独自の理念を作り、職員は理念を共有し、日々実践に努めている。	法人理念と職員と共に作った事業所理念「寄り添う心で自己実現を支援」を廊下壁面に掲げて、毎月会議の都度復唱して確認している。更に「ひとりひとりの幸せと笑顔の為に」というような職員目標を毎月交代で作成している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	事業所は地域町内会に加入し、町内会行事やゴミ拾い清掃等のに参加し交流を図っている。又、定期的に地域住民のボランティアの訪問があり、利用者に喜んでいただいている。	町内会に加入して清掃などの地域行事へ参加し、事業所の夏祭りや焼肉会へ地域住民が参加交流し、毎月幕別町登録のボランティアが来訪するなど、相互に交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が行う夏祭りに町内会員を招待し、交流を図るよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し行事報告、計画及び事故報告をしている。行事参加をし、ホームの現状を把握し、意見交換をしている。	町、包括支援センター、地域住民、家族が出席して年6回開催している。運営状況、行事、事故などを報告して、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。ボランティアの来訪交流について、夜間の避難誘導への不安、SOSネットワークや看取り問題に関して意見・提案が寄せられている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自己評価、外部評価等を提出し、運営上の疑問等には積極的に相談しケアの向上に努めている。	町の担当者とは、毎月利用者が抱える課題に関して助言や指導を受けたり外部評価の結果を提出している。運営推進会議出席時に情報、指導を受け密接な連携が図られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束廃止推進委員会を設置し、全職員よりのアンケート調査を実施し、委員会で検討し、社内研修において報告・意見交換を行っている。委員会は定期的に開催している。	母体法人が定期的に身体拘束廃止に関する研修会を開催しており、必ず事業所から参加している。職員は受講後報告書を作成・記録して、職員会議で他の職員に伝達して身体拘束をしないケアに努めている。	万が一、入居者が無断外出・行方不明になった時に備えて、地域や警察との連携・協力体制を構築し、マニュアルを作成し、そのマニュアルに則って具体的に無断外出を想定した対応訓練をすることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で高齢者虐待防止委員会を設置し、全職員よりのアンケート調査を実施し、委員会で検討し、社内研修にて報告・意見交換を行っている。委員会は定期的に開催している。		

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について外部講師による社内研修及び外部研修を行っているが、制度上困難な事項が多く、活用されていない。今後必要に応じ対応したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については事前に利用者及び家族に閲覧していただき、契約時に説明し質問等を聞き確認してから契約を行う。解約時は次の生活場所の相談支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を定めている。ご意見箱を設置し、意見を受けている。家族の来訪時に会話を交わすように心がけ意見や要望を聞き、運営に反映させている。	利用者との日々の会話の中から折りに触れて希望を聞き取っている。また、家族の来訪時に積極的に話しかけることをすべての職員が心がけて、その中から隠れた要望や意見をくみとり、会議で検討して運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は組織体制により上層部に上げていく体制で反映している。	会議などにおいて問題点や課題が活発に話し合われており、例えば雑巾用古いタオルや汚物処理に使用する古新聞が事業所で不足していた。それを職員提案で家族に呼びかけることとし、協力を得て充足できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社での就業規則に定めている。又職員の評価を行い実績、勤務状況を把握し反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で職員研修を実施。全員が研修を受けられる機会を確保している。外部研修にも積極的に参加し、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会に加入し、同業者とのネットワークづくり又相互評価事業により評価を受け、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族による施設見学を行い、面談説明し本人の要望等を聞き満足し希望された時点で入居をしていただくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しては、利用料、サービス内容を説明し、要望等に対して出来るだけ満足していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に本人及び家族の生活歴、主治医、各関係機関の生活等を把握しアセスメントにより支援するサービス内容を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ本人のペースに添って自分出来ること、支援が必要なことを把握し、その人らしい生活をしていただける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆が希薄にならないよう訪問をしていただき、又月一回のおたより等で利用者の現状報告親密な関係を築く様努めている。家族は、事業所の要望に応じて、必要な古タオルなどを提供して協力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人、知人については出来るだけ疎遠にならないよう支援に努めている。馴染みの美容室やマッサージへの同行支援を行っている。	利用者が差し出す手紙の手伝い、お寺参り、お墓参りや散歩、買い物への同行をしている。また、マッサージ、食堂や美容室など馴染みの店に通えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関係を築くため、部屋の閉じこもりを少なくし、出来るだけリビングでも生活を多くしお互いに支えあえる環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話、入院の場合は訪問等を通じて相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の尊厳を重視し、希望、意向を見極めるように努め、困難な場合はケース会議及び家族の意見も聞き対処している。	利用者を深く理解し、個別の本質的なケアを実践するために利用者個々の意向を細かく聞き取って対応している。困難な場合はケース会議で話し合ったり、家族からの聞き取りによって対処している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の馴染みの家具、什器類等を利用し、出来るだけ生活環境の変化を少なくしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身の状況を把握し、その人の有する能力を發揮してもらるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞きながら、スタッフ全員でモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者の日々の体調を観察して記録し、「変化がある」と判断したら即、ホーム長に報告している。ホーム長が「緊急性ある」「時間的に余裕がある」「医師に報告相談する」等の判断をして、利用者、家族の意向を反映させ、全体会議で協議して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、体調変化等を記録しスタッフ全員が共有し、介護及び介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、本人の要望等に応じ柔軟に対応するように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域町内会に加入し、町内行事参加、ふれあい便りの配布等で地域住民の理解を得られるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が従来のかかりつけの医療機関での受診を基本に対応している、又医療連携をしている医療機関との連携を密にしている。月に1度、かかりつけ医の往診が受けられるよう支援している。	利用者、家族の意向に添ってかかりつけ医に受診している。通院は家族同行が基本であるが、職員の時間をやり繰りをして可能な限り同行している。その際は医師に利用者の体調について報告するなど、継続してかかりつけ医に受診できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化を把握し看護師に情報を提供し相談を受けている、又看護師は医療機関への情報を提供し適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換、訪問面談等を行い受け入れ態勢を整え早期退院に向けての取り組みを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については本人、家族と話し合い、説明をしお互いの方針を共有し支援に取り組むよう努めている。ターミナルケアの研修を行い、終末期への理解を深めている。	重度化した場合や終末期に関しては、契約時に事業所で出来ることを利用者、家族に説明している。現実化した時には、医師などの意見をもとに現状を説明して、方針決定のための支援をしている。職員にターミナルケアの研修を行い、終末期の看取りに関する理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時及び事故発生時の応急手当等については、社内研修等において関係機関による実践訓練の実施を随時行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災対策要綱を設置し法人全体で対策を行っている。各施設で年2回の防火防災訓練を消防署の協力により実施している。隣接しているシニアマンションとの協力体制を進めている。	防災対策要綱に従って、夜間想定を含む年2回の防火防災訓練を消防署の協力のもとに実施している。また日常的に近隣の消防士OBから災害対策の支援、指導をしてもらっている。隣接シニアマンションとの協力体制が徐々に出来上がっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねるような言葉かけには十分に気をつけた対応をしている。	一人ひとりの人格を最大限に尊重するケアを心がけ、例えば大きな声を発する利用者に対して、職員はその原因を探求したり、対応を工夫するなど根気よく丁寧に対応した結果、治まった例がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定をするには個々の能力に見合った選択の場を設け希望が叶うよう働き掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の毎日の流れを優先することなく、希望に添った一人一人のペースを大切にするように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容による理美容、又身だしなみについては個々の希望により気に入ったものにするよう支援している。		

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の決まった食事ではなく、週に1度は利用者の希望に応じて献立をしている。又個々の能力にあった食事の準備、後片付けを手伝ってもらっている。	食事は法人の食材センターから供給されるが、週に一日、利用者の要望を聞いて事業所で作っている。能力に対応したトロミなど丁寧な対応をしている。可能な限り食事前の準備、後片づけ、味付けを、職員と会話を交わしながら楽しく行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事量、栄養バランスに配慮している。水分量についても個々にチェックし確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは食事後1人1人本人の能力に合わせて支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。又本人の尿意、間隔等を配慮し、状態に合わせた下着、リハパン、パットの使い分けをしながら自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを記録して、適時の声掛けによってトイレ誘導している。利用者の状態に合わせた下着、リハパン、パットを使い分けながら自立に向けた支援を行っている。入居時より向上した例が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事については出来るだけ繊維質の多い食材に配慮している。又個々の身体に応じた運動をし健康状態を保つようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については一応入浴日を定めているが、個々の体調などに配慮しながら、使用者の希望に添った入浴が出来るよう支援している。天然モール温泉を利用している。	週3日を入浴日としているが、要望があれば可能な限り対応している。湯は、天然モール温泉を引いており、肌にしっとりなじむと利用者には喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、又その日の体調等に応じた休息、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対する成分、目的及び副作用等を理解し、服薬に対する症状を把握し変化のある場合は主治医との相談による支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームにおいて個々の能力にあった役割分担をし、その人らしい豊かな生活ができるよう支援している。		

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けなような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ストレスをためないよう利用者の希望に添って散歩、買い物等を行っている。又行事計画により、外食、ドライブ等気分転換が図れるよう支援している。	町登録のボランティアの協力を得て、散歩に出かけることもある。また買い物など積極的に利用者個々の外出を支援している。行事計画を立てて、外食、ドライブ等に出かけることで気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の小遣いについては基本的に個人が管理することとしているが、個々の能力に応じて金銭管理の困難な場合はホームで管理支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等への電話については本人の希望に応じいつでも連絡可能な支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分については、いつも清潔にし、又採光が十分に取れるよう配慮し、季節の花を飾る等居心地の良い共用空間づくりに努めている。	居間は季節を感じられるように利用者と一緒に創作した物などが展示されており、楽しみや生活のメリハリ、心のやすらぎを感じられる居心地の良い空間になっている。事務室・調理室から利用者動向が一望できてサポートしやすい。長い廊下は利用者の健康づくりに活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはいつも利用者が集まり、それぞれ好きな場所で過ごせるよう支援している。又、会話やビデオを楽しめるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた馴染みの家具等を持ち込み、今までの生活と変化がないよう配慮し居心地よく暮らせるよう支援している。	自宅から仏具、筆筒、整理棚などの持込がある。遺影や位牌、家族の写真、孫の塗り絵などを壁に貼って居心地よく過ごしている。。居室は全室南に面しており明るい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活をするためできるだけ個々の能力を生かし自立した生活が送れるよう支援している。		